高等学校第１学年　保健体育科学習指導案

Cモデル

１　単元名　現代社会と健康　がんの予防と回復（外部講師：医師、看護師）

２　本時の目標

がんの治療法を選択する上で大切なことは何か考えることを通して、がん患者の思いや、がんと共に生きる生活について理解を深めることができる。（思考・判断・表現）

３　本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 学習内容 | 学習活動　「・」予想される生徒の思考 | ◇教師の指導　等 |
| 導入 | 1.がんの治療法について理解する。 | ○がんの治療法の種類について発表する。・手術療法　・放射線療法　・化学療法・緩和ケアというのもあった。がんを治療していく上で大切なことは何か学び、がんとの向き合い方を考えよう。 | ◇始めに、本時の講師を紹介する。 |
| 展開 | 2.がんの治療法をどのように選択するか考える。 3.緩和ケアについて考える。 | ○がんになった場合、治療法を選択する上で、何を重要視するか考える。＜グループ交流＞①45歳既婚　子ども2人　家族を養っている時期②30歳独身　仕事に力を入れている時期③20歳学生　オリンピックに出場決定後●講師から治療で大切なことを聞く。・がんの治療は、後悔しないように納得できるまで医師と話し合い、最終的に自分で選択する。（インフォームドコンセント）・治療方針は医師によって異なることがあるため、別の医師に意見を聞いてもよい。（セカンド・オピニオン）・実際に関わった患者の事例を聞く。○もし自分ががんになったら、不安になることはないか考える。＜グループ交流＞・痛みや吐き気など、治療中も苦しいと思う。・治療費がいくらかかるか心配になる。・もう今まで通りの生活はできないだろうと悩む。●講師から緩和ケアについて話を聞く。・緩和ケアは、終末期だけでなく、がんと診断されたときから始まる。・単にがんを治すだけでなく、その人らしく生きるための支援である。 | ◇①～③をグループに分けて考え、その後、全体交流を行う。※状況や考え方によって、治療法も異なってくることを理解できるようにする。◇病期、検査、治療について十分理解した上で、医師ではなく、自分が決定することを押さえる。◇がんの種類や進行度によって、組み合わせて行うこともあることを押さえる。◇体の苦痛と心の苦痛の2つに整理してまとめる。◇相談窓口があることを伝える。◇治療と平行して緩和ケアを行い、状況に合わせて割合を変えていくことを押さえる。 |
| まとめ | 4.本時のまとめ | ○本時で学んだことをまとめる。・がんになっても、がんと向き合い、自分らしく生きていくことが大切である。●医師としての思いを聞く。 | ◇がん治療は、今後の生活や生き方も踏まえて選択すること、生活の質（QOL）の維持向上も大切であることを押さえる。

|  |
| --- |
| 【評価規準】思考・判断・表現がんの治療法を選択する上で大切にしたいことについて、まとめている。 |

 |